

## 現代日本の青年期女子における道徳に関する意識構造

——沖縄県と他県との比較調査研究（2）「善さ」の行動化——

● 阿部 洋子

キーワード：道徳性、善の行動化、合理的判断

### 問 題

子どもたちの道徳心は、家庭での躰、学校での道徳の授業、地域社会での関係性のあり方などによって育成されていくものであろう。しかし現代の日本の青少年を取り巻く環境は、その機能を果たすことができているのだろうか。

これまで東京都、埼玉県、神奈川県で実施した調査結果（阿部洋子：1996～2013年）から、現代の日本における道徳意識の構造の特徴を、善悪の程度、善悪の重要性、領域判断（道徳・社会的慣習・個人の自由）、当為性（するべきか、する必要がないか、すべきでないか）、善なる行為の実行の頻度について検討してきた。

そこで今回は、それらの結果に加え、沖縄県というエイサーやハーリーなど先祖供養にまつわる年中行事が大切にされている地域との結果を比較することで、道徳と祖先崇拜、家族関係、人間関係、ルールの内実の特徴を検討したいと考えた。なお、今回の沖縄県での調査では、男子の調査対象者が18名と少なかったため、因子構造を比較するに至らなかった。そのため本論文では、女子のデータのみを用いて、検討することにした。また紙数の関係上、本論文では、道徳的に「善い」と考えられている行為が、どの程度行動化されているのか。そして沖縄県と他県（埼玉県・神奈川県）では、その結果にどのような特徴がみられるかを検討することにした。

### 方 法

#### 1. 調査対象者および調査の実施方法

##### 1) 調査期日

- ◆ 他県（埼玉県・神奈川県）：2008年10月1～30日
- ◆ 沖縄県：2012年11月

##### 2) 調査対象者

- ◆ 他県：埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1年次学生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、翌週の授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票のうち、記入漏れなどの欠損データのあるものを除き、251名（男子：92名、女子159名）を分析の対象とした。更に、その後、質問紙に組み込んだ「虚偽項目（L項目）」の総得点で、高得点を示した調査対象者（上位5%）の13名は「社会的望ましさ」に強く引かれた回答

をしている可能性が高く、信頼性に欠けると判断し、最終的に238名（男子：86名（平均年齢=21.09歳、SD=3.60）、女子：152名（平均年齢=20.21歳、SD=1.49））を分析の対象とした。

- ◆ 沖縄県：私立大学（通学制）1年次学生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票には、記入漏れなどの欠損データはなく、71名（男子：18名、女子53名）を分析の対象とした。上述の「L項目」の総得点で、高得点を示す者はなく、すべてのデータは信頼性に足るものであると判断した。しかし男子のデータが18名と少なかったため、因子構造を検討することができないため、本論文では、女子53名（平均年齢=19.33歳、SD=1.23）のみを分析の対象とした。

## 2. 質問紙の構成<sup>注1</sup>（道徳性尺度「善さ」）

選定された行為は、大学生86名に対して「道徳的に好ましいと思われる行為」について、各人に10項目を挙げて貰ったもの（阿部洋子；1995年、未発表）と、小学校・中学校の「道徳」の教科書の中から抽出されたものを、大学院生3名により、類似の表現のものをまとめた、27項目が選定された（阿部洋子；1995年、未発表）。この尺度において、①「善さ」の程度、②当為性（するべきだ）、③領域判断（道徳・社会的慣習・個人）、④「善さ」の重要性、⑤「善い行為」の実行の頻度を測定するものとした（阿部洋子；2010）。

本論文で取り上げる⑤「善い行為」の実行の頻度（以下「善さ」の行動化と称する）の部分についてのみ、若干の説明を加えると、選定された27項目について、それらの行為を、自分自身が普段、どの程度、実行しているかについて、「いつも実行している：5点～全く実行していない：1点」の5段階尺度で評定を求めた。

## 結 果

### 1. 「道徳性尺度“善さの行動化”<sup>注2</sup>」の全体傾向

#### 1) 沖縄県における「善さの行動化」の平均得点（Table 1）

「善さの行動化」の平均得点が4.000点以上と高く、日常的に、常に実行していると回答した行為は、「No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（Me. =4.717, SD=0.495）」や、「No.5 年上の人に対して敬語を使う（Me. =4.660, SD=0.618）」、「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない（Me. =4.302, SD=0.992）」、「No.10 小・中学生が校則を守る（Me. =4.132, SD=0.785）」、「No.11 社会のルールを守る（Me. =4.321, SD=0.547）」、「No.12 法律を守る（Me. =4.698, SD=0.503）」、「No.13 年中行事を大切に（Me. =4.208, SD=0.743）」、「No.21 故郷を愛する（Me. =4.075, SD=0.937）」など、感謝の心を言語表明する行為、ルール遵守に関する行為であった。一方、平均得点が3.500点未満と低く、日常、ほとんど実行していないと回答した行為は「No.19 太陽に手を合わせる（Me. =1.453, SD=0.889）」、「No.18 神仏に手を合わせる（Me. =2.906, SD=1.319）」、「No.20 日本の国を愛する（Me. =

注1 質問紙の構成についての詳細は、阿部洋子（2007）を参照して頂きたい。

注2 「善さの行動化」は、常にやっている（5点）～全くやっていない（1点）で自己評価された。

3.057, SD=1.064)」、「No.27 自然と調和した生き方をする (Me.=3.491, SD=0.823)」などであり、畏敬の念の対象への行為であった。

## 2) 他県における「善さの行動化」<sup>註3</sup>の平均得点 (Table 1)

「善さの行動化」の平均得点が4.000点以上と高く、日常的に、常に実行していると回答した行為は、「No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う (Me.=4.178, SD=0.672)」や、「No.4 学校の先生に挨拶する (Me.=4.276, SD=0.600)」、「No.5 年上の人に対して敬語を使う (Me.=4.382, SD=0.539)」、「No.7 乗り物の中で、障害のある人などに席をゆずる (Me.=4.375, SD=0.573)」、「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない (Me.=4.039, SD=0.640)」、「No.11 社会のルールを守る (Me.=4.151, SD=0.584)」、「No.14 家族揃って食事をする (Me.=4.382, SD=0.699)」、「No.15 親孝行する (Me.=4.257, SD=0.636)」、「No.21 故郷を愛する (Me.=4.007, SD=0.741)」、「No.22 日本人を愛する (Me.=4.039, SD=0.640)」、「No.26 自然を大切にす (Me.=4.316, SD=0.624)」などであり、礼儀、公共の場での行為、親孝行、故郷愛など多岐に亘っていた。一方、平均得点が3.500点未満と低く、日常、ほとんど実行していないと回答した行為は「No.19 太陽に手を合わせる (Me.=2.151, SD=0.968)」、「No.18 神仏に手を合わせる (Me.=3.178, SD=1.086)」、「No.20 日本の国を愛する (Me.=3.257, SD=0.966)」、「No.13 年中行事を大切にす (Me.=3.408, SD=0.923)」など、畏敬の念の対象への行為であり、更に「No.24 夢の実現のために努力する (Me.=3.329, SD=0.912)」、「No.25 夢を持つ (Me.=3.477, SD=0.919)」、「No.8 人間関係を大切にすために、言いたいことを我慢する (Me.=3.007, SD=0.705)」などであり、夢に関する行為と主張性に関する行為であった。

## 3) 沖縄県と他県の「善さの行動化」の平均得点の差の検討 (t 検定) (Table 1)

### ①沖縄県の「善の行動化」の平均得点の方が高い行為

27項目中、17項目について有意差が見出された。それらの項目の中で、他県に比べて、沖縄県の女子大学生の行動化の平均得点が有意に高かったのは、「No.1 他人に対して、「ありがとう」と感謝のことばを言う (t=5.354, p<0.001)」、「No.5 年上の人に対して敬語を使う (t=3.119, p<0.01)」、「No.8 人間関係を大切にすために、言いたいことを我慢する (t=4.285, p<0.001)」、「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話さない (t=2.205, p<0.05)」、「No.10 小・中高生が校則を守る (t=2.548, p<0.05)」、「No.12 法律を守る (t=8.900, p<0.001)」、「No.13 年中行事を大切にす (t=5.692, p<0.001)」、「No.24 夢の実現のために努力する (t=3.653, p<0.001)」の以上8項目であった。

### ②他県の「善の行動化」の平均得点の方が高い行為

他県の女子大学生の行動化の平均得点が高いのは、「No.3 近所の人に挨拶する (t=-2.060, p<0.05)」、「No.4 学校の先生に挨拶する (t=-3.987, p<0.001)」、「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる (t=-2.753, p<0.01)」、「No.7 乗り物の中で、障害のある人などに席をゆずる (t=-6.044, p<0.001)」、「No.14 家族揃って食事をする (t=-5.588, p<0.001)」、

注3 他県の「善さの行動化」の結果の詳細については、阿部洋子 (2012) を参照されたい。

Table 1 沖縄県 (53名) と他県 (埼玉県・神奈川県・埼玉県) の「善さ」の程度および行動化の平均値の差の検定 (t検定)

No.	質問項目	沖縄県の善の程度の平均値	SD	他県の善の程度の平均値	SD	t 値	p 値	沖縄県の行動化の平均値	SD	他県の善の行動化の平均値	SD	t 値	p 値
1	他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	9.302	1.030	8.993	1.097	1.785	n.s.	4.717	0.495	4.178	0.672	5.354	0.001
2	家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	9.094	1.148	8.651	1.411	2.054	0.05	3.981	1.009	3.914	0.608	0.571	n.s.
3	近所の人に挨拶をする。	8.038	1.581	7.691	1.536	1.402	n.s.	3.642	1.226	3.914	0.640	-2.060	0.05
4	学校の先生に挨拶をする。	7.868	1.606	7.678	1.584	0.749	n.s.	3.830	0.935	4.276	0.600	-3.987	0.001
5	年上の人に対して敬語 (相手を敬った言葉遣い) を使う。	8.453	1.749	8.020	1.541	1.696	n.s.	4.660	0.618	4.382	0.539	3.119	0.01
6	乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。	8.226	1.577	7.862	1.821	1.294	n.s.	3.585	1.117	3.941	0.673	-2.753	0.01
7	乗り物の中で、障害のある人、怪我 (けが) をしている人に席をゆずる。	8.717	1.364	8.717	1.364	-0.001	n.s.	3.660	1.091	4.375	0.573	-6.044	0.001
8	人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する。	5.245	1.989	5.467	1.929	-0.713	n.s.	3.566	1.083	3.007	0.705	4.285	0.001
9	乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない (緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く)。	6.849	1.945	7.447	1.773	-2.058	0.05	4.302	0.992	4.039	0.640	2.205	0.05
10	小学生・中学生が校則を守る。	7.132	1.912	7.151	1.993	-0.061	n.s.	4.132	0.785	3.816	0.776	2.548	0.05
11	社会のルールを守る。	7.943	1.657	8.086	1.709	-0.524	n.s.	4.321	0.547	4.151	0.584	1.848	n.s.
12	法律を守る。	8.491	1.540	8.382	1.781	0.396	n.s.	4.698	0.503	3.559	0.882	8.900	0.001
13	年中行事 (正月・お盆・お節句・お月見など) を大切にする。	7.340	2.121	6.349	2.511	2.563	0.05	4.208	0.743	3.408	0.923	5.692	0.001
14	家族揃って、食事をする。	7.415	2.274	7.039	2.149	1.077	n.s.	3.604	1.246	4.382	0.699	-5.588	0.001
15	親孝行する。	8.377	1.608	8.138	1.655	0.911	n.s.	3.585	0.842	4.257	0.636	-6.064	0.001
16	先祖のお墓参りに行く。	7.623	1.873	7.158	2.125	1.408	n.s.	3.604	1.182	3.816	0.872	-1.383	n.s.
17	自分の先祖を大切に思う。	7.528	2.136	6.908	2.309	1.712	n.s.	3.811	1.128	3.783	0.913	0.183	n.s.
18	神仏に手を合わせる。	5.679	2.953	5.599	2.725	0.208	n.s.	2.906	1.319	3.178	1.086	-1.482	n.s.
19	太陽に手を合わせる。	3.019	2.649	3.355	2.706	-0.782	n.s.	1.453	0.889	2.151	0.968	-4.616	0.001
20	日本の国を愛する。大切に思う。	5.660	2.752	5.447	2.567	0.509	n.s.	3.057	1.064	3.257	0.966	-1.264	n.s.
21	自分の故郷を愛する。大切に思う。	7.623	2.123	6.395	2.297	3.406	0.001	4.075	0.937	4.007	0.741	0.542	n.s.
22	日本人を愛する。大切に思う。	6.774	2.462	6.072	2.306	1.869	n.s.	3.509	1.012	4.039	0.640	-4.414	0.001
23	世界中の人を愛する。大切に思う。	7.245	2.369	6.737	2.273	1.384	n.s.	3.547	1.066	3.507	0.956	0.258	n.s.
24	夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。	8.302	1.671	7.974	1.678	1.225	n.s.	3.868	0.962	3.329	0.912	3.653	0.001
25	夢や目標を持つ。	8.415	1.512	8.112	1.711	1.141	n.s.	3.698	1.102	3.447	0.919	1.622	n.s.
26	自然を大切にする。	8.491	1.449	8.461	1.468	0.128	n.s.	3.906	0.815	4.316	0.624	-3.791	0.001
27	自然と調和した生き方をする。	7.642	1.820	7.586	1.801	0.194	n.s.	3.491	0.823	3.730	0.763	-1.929	n.s.

「No.15 親孝行をする ( $t=-6.064, p<0.001$ )」、「No.19 太陽に手を合わせる ( $t=-4.616, p<0.001$ )」、「No.22 日本人を大切に思う ( $t=-4.414, p<0.001$ )」、「No.26 自然を大切にする ( $t=-3.791, p<0.001$ )」の以上9項目であった。

## 2. 「道徳性尺度（善さの行動化）」の因子構造

### 1) 沖縄県における「善さの行動化」の因子構造 (Table 2)

「道徳性尺度（善さ）」の27項目における「善さの行動化」について、因子分析を実施した（主因子法、プロマックス回転）。その結果、スクリー法により、4因子が抽出された。第1因子の因子寄与率が、20.687%と大きく、以下、第2因子は8.422%、第3因子は6.315%、第4因子は4.685%であった。

第1因子は「No.26 自然を大切にする」、「No.27 自然と調和した生き方をする」など、自然を大切にする行為と、「No.25 夢や目標を持つ」、「No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」など、夢の実現に関する行為などであった。これに「No.4 学校の先生に挨拶をする」（礼儀）、「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない」（公衆道徳）が組み込まれた。また因子負荷量が0.291と小さいが「No.13 年中行事を大切にする」が組み込まれた。しかしこの項目は、第4因子の因子負荷量が0.278と近似値を示した。以上のことから、第1因子は「自然を大切にする行為、夢の実現」因子と命名した。

第2因子は「No.22 日本人を愛する」、「No.23 世界中の人を愛する」、「No.20 日本の国を愛する」、「No.21 自分の故郷を愛する」、「No.7 乗り物の中で怪我をしている人に席をゆずる」など、博愛精神と民族尊重に関する行為と、「No.18 神仏に手を合わせる」、「No.1 他人に対して感謝のことばを言う」、「No.19 太陽に手を合わせる」など、感謝に関する行為などであった。しかし同じ感謝に関する行為であっても「No.2 家族に対して感謝のことばを言う」という行為は、第2因子には組み込まれず、しかも他の因子に比べれば、第4因子の因子負荷量が大きかったものの、その値は0.278と非常に小さいものであった。以上のことから、第2因子は「博愛精神、民族尊重、感謝」因子と命名した。

第3因子は「No.10 小学生・中学生が校則を守る」、「No.11 社会のルールを守る」など、ルール遵守に関する行為と、「No.5 年上の人に対する敬語の使用」、「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる」など、長幼の序・礼儀に関する行為などであった。次に「No.3 近所の人に挨拶する」は、第1因子の因子負荷量も0.416と大きく、明確に1つの因子として抽出されなかった。また「No.12 法律を守る」は、他の因子に比べれば、第3因子の因子負荷量が大きかったものの、その値は0.266と非常に小さいものであった。以上のことから、第3因子は「ルール遵守、長幼の序、礼儀」因子と命名した。

第4因子は「No.14 家族揃って、食事をする」、「No.16 先祖のお墓参りに行く」、「No.15 親孝行」、「No.17 自分の先祖を大切に思う」などが組み込まれた。また因子負荷量は、0.275と小さいが「No.2 家族に感謝のことばを言う」が組み込まれ、先祖を含む血縁の尊重に関する行為などであった。更に「No.8 人間関係を大切にするために、言いたいことを我慢する」の因子負荷量は負の値を示した（ $-0.612$ ）。即ち「関係性重視のために、言いたいことを我慢するようなことはない」という結果であった。以上のことから、第4因子は「血縁尊重（先祖を含む）」因子と命名した。

Table 2 沖縄県(女子:53名)善の行動化 因子分析(主因子法、プロマックス回転)

No.	項目	第1因子 自然を大切にす 行為、夢の実現	第2因子 博愛精神、民 族尊重、感謝	第3因子 ルール遵守、長 幼の序、礼儀	第4因子 血縁尊重 (先祖を含む)	共通性
26	自然を大切にす。	0.826	0.016	-0.150	0.127	0.870
25	夢や目標を持つ。	0.766	-0.092	0.073	-0.145	0.754
24	夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。	0.714	-0.136	-0.023	-0.076	0.775
27	自然と調和した生き方をす。	0.603	-0.017	-0.106	0.065	0.750
4	学校の先生に挨拶をする。	0.556	0.054	0.120	0.132	0.849
9	乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない(緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く)。	-0.480	0.062	0.077	0.311	0.582
13	年中行事(正月・お盆・お節句・お月見など)を大切にす。	0.291	0.191	0.034	0.278	0.590
22	日本人を愛する。大切に思ふ。	-0.055	0.715	0.114	-0.061	0.826
23	世界中の人を愛する。大切に思ふ。	0.188	0.708	-0.348	0.110	0.736
20	日本の国を愛する。大切に思ふ。	-0.215	0.681	0.103	-0.220	0.831
21	自分の故郷を愛する。大切に思ふ。	-0.002	0.644	0.331	0.092	0.831
7	乗り物の中で、隣客のある人、怪我(けが)をしている人に席をゆずる。	0.169	0.538	0.276	0.081	0.884
18	神仏に手を合わせる。	-0.109	0.434	-0.062	0.146	0.593
1	他人に対して、「ありがとう」など、感謝の言葉を言う。	0.105	0.352	-0.084	0.329	0.620
19	太陽に手を合わせる。	-0.077	0.331	-0.102	0.304	0.610
10	小学生・中学生が校則を守る。	-0.048	-0.019	0.628	-0.038	0.626
11	社会のルールを守る。	-0.125	0.024	0.555	0.075	0.587
5	年上の人に対して敬語(相手を敬った言葉遣い)を使う。	-0.031	-0.053	0.490	-0.039	0.612
6	乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。	0.169	0.328	0.479	-0.008	0.834
3	近所の人に挨拶をする。	0.416	0.109	0.468	-0.183	0.749
12	法律を守る。	-0.068	0.166	0.266	0.190	0.566
8	人間関係を大切にすするために、自分の言いたいことを我慢する。	0.162	0.003	0.046	-0.612	0.555
14	家族揃って、食事をす。	-0.045	-0.228	0.499	0.551	0.760
16	先祖のお墓参りに行く。	0.061	0.225	-0.113	0.524	0.555
15	親孝行する。	0.289	-0.229	0.124	0.453	0.723
17	自分の先祖を大切に思ふ。	0.231	0.220	0.087	0.321	0.657
2	家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝の言葉を言う。	-0.091	0.172	0.061	0.275	0.561
因子の 相関行列		1.000				
第2因子		0.343	1.000			
第3因子		0.219	0.290	1.000		
第4因子		0.369	0.091	0.210	1.000	
固有値		5.586	2.274	1.705	1.265	
寄与率		20.687%	8.422%	6.315%	4.685%	
累積寄与率		20.687%	29.109%	35.423%	40.109%	

Table 3 他県（埼玉県・神奈川県：152名）善の行動化 因子分析（主因子法、プロマックス回転）

No.	項 目	第1因子 自然を大切にす 行為、ルール遵守	第2因子 感謝、血縁尊 重	第3因子 夢の実現、博愛 精神、民族尊重	第4因子 家族関係の 尊重	共通性
26	自然を大切にす。	0.630	-0.218	0.302	-0.174	0.508
4	学校の先生に挨拶をする。	0.591	0.279	-0.149	-0.037	0.556
21	自分の故郷を愛する。大切に思う。	0.570	-0.060	-0.012	0.050	0.440
3	近所の人に挨拶をする。	0.530	0.107	-0.131	0.093	0.459
2	家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	0.502	0.101	-0.018	0.136	0.425
5	年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い）を使う。	0.495	0.183	0.108	-0.150	0.477
27	自然と調和した生き方をす。	0.437	-0.033	0.287	-0.101	0.400
12	法律を守る。	0.412	0.187	0.052	-0.030	0.408
1	他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	0.402	0.025	-0.027	0.298	0.389
22	日本人を愛する。大切に思う。	0.379	-0.148	0.239	0.216	0.437
11	社会のルールを守る。	0.358	0.332	0.018	0.164	0.498
7	乗り物の中で、障害のある人、怪我（けが）をしている人に席をゆずる。	0.330	0.016	0.183	0.087	0.414
16	先祖のお墓参りに行く。	-0.012	0.839	-0.083	0.093	0.769
17	自分の先祖を大切に思う。	0.058	0.771	0.084	-0.006	0.784
18	神仏に手を合わせる。	0.019	0.715	0.080	-0.127	0.531
19	太陽に手を合わせる。	0.091	0.494	0.286	-0.267	0.457
13	年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にす。	0.039	0.406	0.216	0.047	0.439
24	夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。	-0.106	0.116	0.833	0.119	0.730
23	世界中の人を愛する。大切に思う。	0.262	-0.117	0.724	0.045	0.672
20	日本の国を愛する。大切に思う。	-0.067	0.341	0.611	-0.061	0.590
25	夢や目標を持つ。	-0.078	0.301	0.587	0.228	0.665
6	乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。	0.165	0.173	0.238	0.152	0.521
15	親孝行する。	0.131	-0.040	0.010	0.725	0.563
14	家族揃って、食事をする。	-0.053	-0.013	0.172	0.571	0.447
9	乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く〕。	0.160	0.057	-0.183	0.446	0.337
8	人間関係を大切にすするために、自分の言いたいことを我慢する。	-0.092	-0.170	0.102	0.396	0.229
10	小学生・中学生が校則を守る。	-0.009	0.120	0.208	0.374	0.363
	第1因子	1.000				
	第2因子	0.355	1.000			
	第3因子	0.312	0.316	1.000		
	第4因子	0.305	0.323	0.191	1.000	
	固有値	6.874	1.721	1.442	1.317	
	寄与率	25.460%	6.374%	5.341%	4.878%	
	累積寄与率	25.460%	31.835%	37.176%	42.054%	

## 2) 他県(埼玉県・神奈川県)における「善さの行動化」の因子構造<sup>注4</sup>(Table 3)

「道徳性尺度(善さ)」の27項目における「善さの行動化」について、因子分析を実施した(主因子法、プロマックス回転)。その結果、スクリー法により、4因子が抽出された。第1因子の因子寄与率が、25.460%と大きく、以下、第2因子は6.374%、第3因子は5.341%、第4因子は4.878%であった。

第1因子は、沖縄県の結果と同様に「No.26 自然を大切にする」、「No.27 自然と調和した生き方をする」など、自然を大切にする行為であったが、沖縄県の結果では、第3因子に組み込まれた「No.12 法律を守る」、「No.11 社会のルールを守る」など、ルールの遵守に関する行為と、「No.2 家族の人に対して、感謝のことばをいう」、「No.1 他人に対して感謝の言葉を言う」など、感謝に関する行為などが組み込まれた。更に「No.4 学校の先生に挨拶する」、「No.3 近所の人挨拶する」など、礼儀・公衆道徳に関する行為が組み込まれた。以上のことから、第1因子は「自然を大切にする行為、ルール遵守」因子と命名した。

第2因子は、沖縄県の結果と同様に「No.18 神仏に手を合わせる」、「No.19 太陽に手を合わせる」など、神仏への感謝に関する行為と、沖縄県の結果では、第4因子に組み込まれた「No.16 先祖のお墓参りに行く」、「No.17 自分の先祖を大切に思う」、「No.13 年中行事を大切にする」など、伝統尊重・祖先崇拝に関する行為などであった。以上のことから、第2因子は「感謝、血縁尊重」因子と命名した。

第3因子は、沖縄県の結果では第1因子に組み込まれた「No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」、「No.25 夢や目標を持つ」など、夢の実現に関する行為と、沖縄県の結果では第2因子に組み込まれた「No.23 世界中の人を愛する」、「No.20 日本の国を愛する」など、博愛精神と民族尊重に関する行為などであった。また因子負荷量は、0.238と小さいが「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる」(長幼の序)が組み込まれた。以上のことから、第3因子は「夢の実現、博愛精神、民族尊重」因子と命名した。

第4因子は「No.15 親孝行」、「No.14 家族揃って、食事をする」などであり、沖縄県の結果と類似しているが、先祖に関する行為は含まれておらず、血縁の尊重というよりは、むしろ核家族など小さいサイズの家族関係を大切にする行為といえるものであった。また「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない」(公衆道徳)、「No.8 人間関係を大切にするために、言いたいことを言わない」(沖縄県の結果では負であったが、他県では正の因子負荷量であった(+0.396))、「No.10 小中学生が校則を守る」(ルール遵守)などが組み込まれた。以上のことから、第4因子は「家族関係の尊重」因子と命名した。

## 考 察

### 1. 沖縄県と他県における「善さの行動化」の平均得点の差についての検討

#### 1) 沖縄県の「善さの行動化」の平均得点が高い項目

沖縄県も他県も共に「他人に対して感謝の心を言語表明する」や「敬語を使う」や「乗り物の中で、携帯電話で声を出して話さない」などの行為は、日常的に常に実行しているという結果が得られた。

そこで更に、差の検定(t検定)を実施し、両地域の間にもどのような相違点がみられるかにつ

注4 他県の「善さの行動化」の結果の詳細については、阿部洋子(2012)を参照されたい。

いて検討した。その結果「No.1 他人に対して、「ありがとう」と感謝のことは言う ( $t=5.354$ ,  $p<0.001$ )」という、「善さの程度」の平均得点においては有意な差<sup>5)</sup>がみられなかった、他者への感謝の心の言語表明において、沖縄県の方が高得点を示した。ところが、家族への感謝の心の言語表明においては、両地域の平均得点の間に有意な差はみられなかった。即ち、2つの感謝の心の言語表明は、異なる意識構造に支えられている行為だと考えられるのではないだろうか。それが次に揚げる年長者に対して敬語を使うという「長幼の序」であり、年中行事という伝承者と継承者という親密な関係性が形成されることと関係しているのではないだろうか。

さて「No.5 年上の人に対して敬語を使う ( $t=3.119$ ,  $p<0.01$ )」と「No.13 年中行事を大切に ( $t=5.692$ ,  $p<0.001$ )」に有意差がみられた。敬語の使用は、多くの年中行事が年長者から年少者に向かって伝承されていくものである。そうした状況が、敬語の使用を日常的に行うことを支えているのかもしれない。

また、乗り物の中での携帯電話の使用については、「善さの程度」の得点では、他県の方が高得点を示していたが、「善の行動化」においては、沖縄県の方が使用しない頻度が高いという結果が得られた。それは他県では「善い」行為だと分かっている、便利さから使用してしまっているということであろうか。何時でも何処でも使うことができる便利な機器として開発されたものを、使用することは合理的な行為だと考えるからかもしれない。これは「善なる行為」を実行するときに、合理的な判断の方が優先されるということの意味しているといえよう。

さて「合理的な判断優先」をキーワードとして考えると、沖縄県に比べ、他県での行動化の頻度の低さを説明することができる行為が他にもある。例えば、年長者も人間として平等であるという、ある種の合理的な判断を優先させれば、敬語の使用頻度は低くなるであろう。また「No.10 小・中高生が校則を守る ( $t=2.548$ ,  $p<0.05$ )」、「No.12 法律を守る ( $t=8.900$ ,  $p<0.001$ )」にみられるように、たかが校則を守ることにどれほどの意味があるのかと判断すれば、守る頻度は減るであろう。それが法律を守ることの実行の頻度の低下に繋がっているように思われる。また、夢を持つことを大切にするという行為については、両地域の得点の間に有意差がみられなかったが、「No.24 夢の実現のために努力する ( $t=3.653$ ,  $p<0.001$ )」には有意差がみられた。即ち、他県でも、夢を持つことは大切だと考えているが、努力や辛抱をして実現させるといふことには至らないということであろう。夢を持ちなさいとは教えられるが、そのためには努力と辛抱が必要だとは教えられていないのかもしれない。そのために他県では、実現するかどうか分から

注5 【結果】沖縄県と他県の「善さの程度」の平均得点の差の検討 (t検定) (Table 1)

27項目中、4項目について有意差が見出された。「No.2 家族に対して、「ありがとう」と感謝のことは言う」、「No.13 年中行事を大切にする」、「No.21 故郷を愛する」であり、他県に比べて、沖縄県の女子大学生の善さの程度の平均得点の方が、有意に高得点であった。一方、「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話さない」については、他県の女子大学生の善さの程度の平均得点の方が、沖縄県に比べて有意に高得点であった。

【考察】沖縄県で「善さの程度」の平均得点が有意に高い項目として、家族への感謝の心の言語表明があった。家族であっても感謝の心の言語表明をすることや、年中行事や故郷を大切にするなど、首都圏では「善さ」としては失われつつある行為なのかもしれない。ところで、沖縄県を訪れた人々が癒されたと話していることを聞くことがある。それは、これら他県では失われた行為と関係しているのかもしれない。一方、沖縄県より他県の方が「善さの程度」の平均得点が有意に高い、乗り物の中での携帯電話の使用であるが、これは沖縄県が車社会であることと関係しているのかもしれない。車の中であれば、携帯電話で声を出して話をするので、他者が聞きたくもない話を聞かせないようにすることが「善さ」と感じる程度が、他県に比べると低い得点を示したのかもしれない。

ない夢や目標に対して、無駄な努力はしないという考え方が蔓延して、諦めのよい若者が増えたといわれる原因になっているのかもしれない。

## 2) 他県の行動化得点が高い項目

沖縄県に比べ、他県では、「No.3 近所の人に挨拶する ( $t=-2.060$ ,  $p<0.05$ )」、「No.4 学校の先生に挨拶する ( $t=-3.987$ ,  $p<0.001$ )」のように、挨拶に関する行為や「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる ( $t=-2.753$ ,  $p<0.01$ )」、「No.7 乗り物の中で、障害のある人などに席をゆずる ( $t=-6.044$ ,  $p<0.001$ )」など席を譲るという行為について、有意に得点が高く、日常的に頻繁に実践しているという結果を得た。しかし、挨拶や席を譲る行動は、若者たちができていないと批判される行為の1つではないのだろうか。ましてや他県とは埼玉県と神奈川県であり、こうした首都圏の大学キャンパス内や乗り物の中で、挨拶や席を譲る行為が、頻繁に行われているといえるだろうか。これは、調査対象者たちが、偶々、日常的に実践しているという者たちだったのだろうか。しかし、これは誰に対して実行しているかということと関係しているのかもしれない。自分にとって重要な人物、例えば指導教授や隣家の人には挨拶をするという限定的なものなのかもしれない。また席を譲る行為については、先述の沖縄県が車社会だということと関係しているのかもしれない。車であれば、席を譲る行為の実行の頻度は減ることは明らかであるから、この行為についての有意差の有無は簡単に説明することはできないだろう。ここで平均得点をみると「お年寄りに席を譲る」のは3.941点 ( $SD=0.673$ ) であり、「怪我をした人に席を譲る」のは4.375点 ( $SD=0.573$ ) となっており、怪我をしている人に譲る頻度は高得点であるが、お年寄りにはそれほど高い頻度で席を譲っている訳ではないことが分かる。優先席の登場により、高齢者に対して、自発的に席を譲る行為が減少したのではないだろうか。

また、「No.14 家族揃って食事をする ( $t=-5.588$ ,  $p<0.001$ )」、「No.15 親孝行をする ( $t=-6.064$ ,  $p<0.001$ )」など、家族揃って食事をする、親孝行をすることが、沖縄県より多く実践されているという結果を得た。ここで問題になるのは「親孝行」の内容であろう。これについては確認を取っていないが、家族揃って食事をするのも親孝行の1つであるかもしれない。沖縄県は、大家族で食卓を囲むというイメージがあるが、この調査結果をみると、実情はそうではないことが分かる。しかし頻度は低いが濃密ということも考えられる。孤食が子どもの成長に及ぼすマイナスの影響について指摘されているが、家族揃って食事をする、親孝行の内容について今後、詳細な調査を実施したいと考えている。

次に「No.19 太陽に手を合わせる ( $t=-4.616$ ,  $p<0.001$ )」、「No.22 日本人を大切に思う ( $t=-4.414$ ,  $p<0.001$ )」、「No.26 自然を大切にする ( $t=-3.791$ ,  $p<0.001$ )」という結果を得たが、太陽に手を合わせることや、日本人を大切に思うことや、自然を大切にすることなどは、他県より沖縄県の方が、日常的に多く実践しているのではないかと考えていたが、結果は逆で、他県での頻度の方が高かった。これは沖縄県では日本人はヤマトンチューで、元々の沖縄県民はウチナンチューと考えていることと関係しているのかもしれない。ヤマトンチューのために数多くの基地の負担が課せられていることなどから、沖縄県は日本の国であり、日本人でありながら、状況が改善されないことへの嘆きと関係する結果が表れたのかもしれない。また、他県における、太陽に手を合わせる行為や自然を大切にすることは、自然保護運動のレベルの行為なのかもしれない。しかし沖縄県においては、自然保護にどのように対応するか、豊かな自然を観光資源として利用したくても、破壊が目の前で進んでいくという、現実との対峙が余儀なくされており、実行することの難しさ、手が出せないという状況を反映しているために、「善の行動化」の平均得

点が低くなっているのかもしれない。

## 2. 沖縄県と他県における「道徳性尺度（善さの行動化）」の因子構造の検討

沖縄県の調査結果では「善さの行動化」尺度は、第1因子は、自然を大切にする行為と、夢の実現に関する行為に、公衆道徳が組み込まれたことから、「自然を大切にする行為、夢の実現」因子と命名した。これは、自然を大切にすることは、夢を実現することと同様に大切という側面と、善い行動ではあるが、実行困難なものであり、夢に過ぎないかもしれないという嘆き・諦め、更にはそのために辛抱強く努力するという思いを含んでいるのかもしれない。沖縄県では、自然を守ることと基地建設との関係の問題が深刻だと聞いている。沖縄県だけではどうにもならないという思いと、それでも自然を守るためには辛抱して、努力するという2つの思いから、このような因子構造になったのかもしれない。

一方、他県では、第1因子は、沖縄県の結果と同様の、自然を大切にする行為と、沖縄県の結果では、第3因子に組み込まれた、ルールへの遵守に関する行為と、感謝に関する行為と、挨拶をするなどの礼儀・公衆道徳に関する行為が組み込まれたことから「自然を大切にする行為、ルール遵守」因子であった。このように他県では、自然を守ることは、皆がルールを守っていけば実現できるものだという思いの上に成り立っているのかもしれない。

沖縄県の第2因子は、日本人や世界中の人を愛するなど、博愛精神と民族尊重に関する行為と、他者に感謝の心の言語表明をすることや、神仏や太陽に手を合わせるなど、感謝に関する行為などであったことから、「博愛精神、民族尊重、感謝」因子と命名した。ところで感謝に関する行為であっても「家族に対する感謝」は、第2因子には組み込まれず、第4因子に組み込まれたものの、因子負荷量が0.278と非常に小さいものであった。つまり「他人への感謝の心の言語表明」と「家族への感謝の心の言語表明」は、異なる心理的メカニズムの下で行動化されるということを示唆している。また民族・国家・故郷を愛することと、神仏に手を合わせるなどの、畏敬の念の対象物への感謝の心を育てる心が、博愛精神や民族尊重を育てることに繋がっていくのではないかと考えられる。

一方、他県では、第2因子は、沖縄県の結果と同様に神仏に手を合わせる畏敬の念の対象物への感謝であり、先祖を大切に思うこと、年中行事を大切にするなど目に見えない何かを大切にすることがまとめ「感謝、血縁尊重」因子であった。しかし沖縄県の調査結果では、神仏に手を合わせる畏敬の念の対象物への感謝の心は、世界の人々、日本人、日本の国、故郷を大切にすることと共に抽出されており、目に見えない何かではなく、現にある人間、国、故郷の存続が、神仏に手を合わせることと関係しているという違いがみられる。

沖縄県の第3因子は、ルール遵守に関する行為と、長幼の序・礼儀に関する行為などであったことから、「ルール遵守、長幼の序、礼儀」因子と命名した。ところが、礼儀として最も原初的な挨拶行動の内、近所での挨拶は、第1因子にも組み込まれており、明確に1つの因子として抽出されなかった。また「法律を守る」は、因子負荷量が0.266と非常に小さいが、第3因子に組み込まれた。即ち、沖縄県では、社会のルールの1つとして長幼の序、礼儀、敬語の使用などを実行しているといえよう。ルール遵守に関する行為は、他県では、第1因子に組み込まれ、自然を大切にすることや、挨拶、敬語などとまとめ、他県では多くの「善なる行為」が、ルールという枠組みの中で捉えられることで、実現していくように思われる。

一方、他県では、第3因子は「夢の実現、博愛精神、民族尊重」因子であったが、この博愛精神、民族尊重は、夢物語ということとして捉えられているのかもしれない。

沖縄県の第4因子は、親孝行、家族揃っての食事、先祖を大切に思うなど、先祖を含む血縁関係の尊重に関する行為などに「関係性重視のために、言いたいことを我慢する」という行為が組み込まれたことから、「血縁尊重（先祖を含む）」因子と命名した。沖縄県では、先祖の墓参りをしながら、親戚を含めた人々が集まり、共に食事をするという習慣が残っている。こうしたことから考えても、沖縄県での親孝行とは先祖を含めてのことだと考えられる。また「言いたいことを我慢する」という行為については、因子負荷量の符号がマイナス（ $-0.612$ ）であることから考えると、言いたいことを言わずに我慢することは、むしろ好ましいことではないと考えられているようである。即ち、大家族形態にあつては、関係性を大切に、継続していくためには、我慢しないということのようである。しかし言葉というものは、どのように表現するかが問題であるので、攻撃的な自己主張をするということの意味しているとは思えない。この点については、今後、調査をしていきたいと考える。

一方、他県の第4因子は「家族関係の尊重」因子であった。これは、一緒に食事をするを、親孝行の一つとして考えていることが示唆される。ところで、沖縄県では、血縁関係に関する項目に、先祖に関する項目が組み込まれたが、他県では第2因子として抽出されており、他県では家族は目に見える家族、目の前にいて、一緒に食事をする人と考えているようであり、死んでしまえば、あるいは顔を見たことがなければ家族ではないということのようである。遠い先祖、血縁の尊重などは死語になっているのかもしれない。また他県においても「言いたいことを我慢する」は、沖縄県と同様に、第4因子に組み込まれているが、因子負荷量の符号はプラス（ $+0.396$ ）であった。他県では、先祖の墓参りに親戚が集まり、共に食事をするという習慣がみられなくなっているため、あくまでも現在の家族、恐らくは核家族の中での関係性の維持のために、言いたいことを言わずに我慢するということになっているのではないかと考えられる。他県では攻撃的な自己主張をすることが、意見を述べることだと考えている傾向があるのかもしれない。それ故、家族関係の中で相互に主張したいが、主張することを控えることによってストレスfulな関係性を作り上げているのかもしれない。

## 要約

沖縄県の私立大学（通学制）1年次学生（男女）に対して、留置法により、独自に作成した道徳（善）に関する様々な行為について、日常、どれくらいの頻度で実行しているかを5段階評価により求める質問紙調査を実施した。本論文では、女子53名（平均年齢=19.33歳、SD=1.23）のみを分析の対象とした。また、同様の質問紙調査を、埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1年次学生（男女）に対して、留置法により実施した。本論文では、女子152名（平均年齢=20.21歳、SD=1.49）を分析の対象とした。いずれも質問紙に組み込んだ「（虚偽項目）L項目」の総得点の高得点者はなく、すべてのデータは信頼性に足るものであると判断した。

本論文では、「善さの行動化」の平均得点および因子構造について比較検討を実施した。

（1）沖縄県と他県における「善さの行動化」の平均得点の差について検討した結果、両地域共に「他人に対して感謝の心を言語表明する」や「敬語を使う」や「乗り物の中で、携帯電話で声を出して話さない」などの行為は、日常的に常に実行しているという結果が得られた。

そこで更に、差の検定（t検定）を実施し、両地域の間にもどのような相違点がみられるかについて検討した。その結果、他者への感謝の心の言語表明において、沖縄県の方が高得点を示した。しかし、家族への感謝の心の言語表明においては、両地域の平均得点の間に有意な差はみられなかった。即ち、2つの感謝の心の言語表明は、異なる意識構造に支えられていると考えられる。その違いを知るために、沖縄県において高得点を示した他の行為をみると、敬語を使う（長幼の序）と、年中行事を行うであった。このことから年中行事において、伝承者と継承者の間に親密な関係性が形成されることが「長幼の序」の実行を支えていると考えられる。

ところで、乗り物の中での携帯電話の使用は、「善い」行為だと分かっているにもかかわらず、何時でも何処でも使うことができる便利な機器として開発されたものを、乗り物の中で使用することは合理的な行為だという考え方がある。それは善なる行為を実行するときに、合理的な判断の方が優先されるということを意味している。さて、合理的な判断優先ということ 키워ードとして考えると、沖縄県に比べ、他県での行動化の頻度が低かった「携帯電話の使用」以外の行為も説明することができる。例えば、年長者も人間として平等であるという、ある種の合理的な判断を優先させれば、敬語の使用頻度は低くなるであろう。また、校則を守ることにどれほどの意味があるのかと判断すれば、守る頻度は減るであろう。それが法律を守ることの実行の頻度の低下に繋がっているように思われる。また、夢を持つことの大切さは両地域共に差はみられない。しかし、他県では、夢を持ちなさいとは教えられるが、そのためには努力と辛抱が必要だとは教えられていないようである。そのために、実現するかどうか分からない夢や目標に対して、無駄な努力はしないという考え方が蔓延しているのかもしれない。

(2) 沖縄県と他県における「道徳性尺度（善さの行動化）」の因子構造について検討した結果、両地域共に、4因子が求められた。沖縄県では、第1因子は、「自然を大切にす行為、夢の実現」因子であった。これは、自然を大切にすることは、夢を実現することと同様に大切という側面と、善い行動ではあるが、実行困難なものであり、夢に過ぎないかもしれないという嘆き・諦め、更にはそのために辛抱強く努力するという思いを含んでいると考えられる。一方、他県の第1因子は「自然を大切にす行為、ルール遵守」因子であった。このように他県では、自然を守ることは、皆がルールを守っていけば実現できるものだという思いの上に成り立っているようである。

沖縄県の第2因子は、「博愛精神、民族尊重、感謝」因子であった。ところで感謝に関する行為であっても「家族に対する感謝」は、第4因子に組み込まれた。つまり「他人への感謝の心の言語表明」と「家族への感謝の心の言語表明」は、異なる心理的メカニズムの下で行動化されるということを示唆された。また畏敬の念の対象物への感謝の心を育てる心が、博愛精神や民族尊重を育てることに繋がっていくのではないかと考えられる。一方、他県の第2因子は、沖縄県の結果と同様に神仏に手を合わせる畏敬の念の対象物への感謝であり、先祖や年中行事を大切にすなど、目に見えない何かを大切にす行為であった。しかし沖縄県では、神仏に手を合わせる畏敬の念の対象物への感謝の心は、目に見えない何かではなく、現にある人間、国、故郷の存続が、神仏に手を合わせることに関係しているという違いがみられる。

沖縄県の第3因子は「ルール遵守、長幼の序、礼儀」因子であった。沖縄県では、社会のルールの1つとして長幼の序、礼儀、敬語の使用などを実行しているといえよう。一方、他県では「夢の実現、博愛精神、民族尊重」因子であり、博愛精神、民族尊重は、夢物語ということとして捉えられているのかもしれない。

沖縄県の第4因子は「血縁尊重（先祖を含む）」であった。沖縄県での親孝行とは先祖を含め

てのことではないかと考えられる。また「言いたいことを我慢する」という行為については、言いたいことを言わずに我慢することは、むしろ好ましいことではないと考えられているようである。しかし言葉というものは、どのように表現するかが問題であるので、攻撃的な自己主張をするということを意味しているとは思えない。この点については、今後、調査をしていきたいと考える。他県の第4因子は、親孝行の一つとして、一緒に食事をするということがあるのかもしれない。また家族は目に見える家族、目の前にいて、一緒に食事をする人と考えているようであり、死んでしまえば、あるいは顔を見たことがなければ家族ではないということのようである。遠い先祖、血縁の尊重などは死語になっているかもしれない。更に他県における「言いたいことを我慢する」は、核家族の中での関係性の維持のために、言いたいことを言わずに我慢することになっていると考えられるが、それは攻撃的な自己主張をすることが、意見を述べることだと考えている傾向があるからかもしれない。それ故、家族関係の中で相互に主張したいが、主張することを控えることによってストレスフルな関係性を作り上げているのかもしれない。

### 参考文献

- 阿部洋子 1996 道徳性尺度作成の試み——予備的研究—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第6号
- 阿部洋子 1998 道徳性尺度作成の試み——予備的研究(3)—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第8号
- 阿部洋子 2005 現代日本人における「道徳性」に関する意識構造の心理学的解明の試論——「道徳性尺度」作成のための予備的調査(2)—— 跡見学園女子大学文学部紀要 第38号
- 阿部洋子 2007 現代日本人の青年期における善悪に関する意識構造と道徳領域判断 跡見学園女子大学文学部紀要 第40号
- 阿部洋子 2009 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(1)「悪さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第42号(2)
- 阿部洋子 2010 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(2)「善さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第44号
- 阿部洋子 2011 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(3)善悪の評価の違いについて 跡見学園女子大学文学部紀要 第46号
- 阿部洋子 2012 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(4)「善さ」の行動化 跡見学園女子大学文学部紀要 第47号
- 阿部洋子 2014 現代日本の青年期女子における道徳に関する意識構造——沖縄県と他県との比較調査研究(1)善の因子構造—— 跡見学園女子大学文学部紀要 第49号
- 文部省 1988 小学校指導書 道徳編
- 文部省 1988 中学校指導書 道徳編
- Smetana, J.G., Bridgeman, D.L. & Turiel, E. 1983 Differential of domains and prosocial behavior. In D.L. Bridgeman (Ed.), The nature of prosocial development; Interdisciplinary theories and strategies. (pp.163-183) New York; Academic Press.
- Turiel, E. 1978 The development of concepts of social structure: Social convention In Glick, J. & Clark-Stewart, K.A. (Eds.), The Development of social understanding. (pp.25-107). New York; Gardner Press.
- Turiel, E. 1983 The development of social knowledge: Morality and convention: Cambridge. England: Cambridge Press.